

## 論文を投稿するにあたっての注意点 -査読について-

日本診療録管理学会会誌 編集委員  
和歌山県立医科大学 先端医学研究所

入江 真行

### はじめに

編集委員会ではこれまで4回にわたり、「論文を投稿するにあたっての注意点」と題して、学術論文の書き方の基礎知識を解説してきた<sup>1) - 4)</sup>。診療録管理学会誌巻末の投稿規程<sup>5)</sup>にも、論文記述の際の基本的なルールが示されている。しかし、これらを参考に論文を書き、学会誌などの学術誌に投稿しても、それがそのまま掲載されることはまずない。投稿論文が学術誌に掲載されるまでには、査読という大変重要なプロセスがあり、これを通過しなければ論文が日の目を見ることはない。しかし、本誌への投稿者には、このプロセスについて理解が不十分であったり、査読者の指摘に対する対応が適当でなかったりする例がよく見受けられる。今回は査読のプロセスについて解説し、よりスムーズな論文掲載の一助としたい。なお、論文査読のプロセスやポリシーについては、学術誌によっていくらかの差があるが、本稿では診療録管理学会誌を例にして解説することにする。

### 査読とは

査読とは、投稿論文が学術誌に掲載するのにふさわしい内容であり、ふさわしい水準に達しているかどうかを、編集委員会の責任の下にチェックし、不十分な点があれば著者に改善を求めるプロセスである。査読によって、掲載する論文の質を維持することは、そのままその学術誌の学術的な評価を維持することにつながる。査読の厳密さが重要視されるゆえんである。

### 査読のプロセス

論文が学術誌に投稿されると、査読を担当する査読者が選任される。本学会の場合、一編の投稿論文を担当する査読者には、編集委員、および診療録管理学会評議員の中から選任された査読協力者のうち、投稿論文の内容と同じ分野を専門とする者2名が指名される。当然のことながら、著者や共著者と同じ所属の者や関係が深いと考えられる者は指名されない。複数の査読者が独立して査読することによって、意見の偏りや見落としを避け、査読の客観性を高めることができる。なお、査読者の氏名は著者には知らされない。

査読者には事務局から投稿論文とチェックシートが送付される。査読者は送付された論文を精読し、期限内に以下のような点についてチェックを行う。

- (1) 論文形式は投稿規程に則っているか。
- (2) 表題、抄録、キーワードは論文の内容をよく要約しているか。
- (3) 論文の体裁・構成は整っているか。
- (4) 論旨、結論は明確か。
- (5) 文章は文法的に正しく記述されているか。
- (6) 専門用語や略語は適切か。
- (7) 図表は適切か。論旨の展開に必要な不可欠なものであるか。
- (8) 統計処理は適切になされているか。
- (9) 文献は適切なものが引用されているか。
- (10) 論文の内容にふさわしい論文種別を希望しているか。
- (11) ページ数は論文種別ごとに定められた範囲内か。

必要ならば、査読者は同じ分野の先行論文を調査したり、参考文献として挙げられた論文を読み、投稿

論文の主張の正しさを確認しなければならない。

査読の結果はまず査読シートと呼ばれるチェックリストに要約される。査読シートには、論文の問題点を指摘し、改善要求する点を具体的に列挙した、査読者のコメントが添付される。細かな指摘は投稿原稿に直接書き込まれることも多い。厳しい調子でコメントをつける査読者もいれば、丁寧な文体の査読者もいる。査読者のスタイルが表れる部分でもある。

査読は投稿論文のあら探しをすることが目的ではない。学術誌への掲載にふさわしいレベルにまで論文の質を高めるための前向きなプロセスである。査読者には、どのように修正すれば論文の質が高まるのか、という観点で論文を精読し、建設的な改善策を著者に示す責任がある。

査読者の意見は編集委員長の下に集められ、委員長の校閲を受ける。2名の意見に大きな隔たりがある場合は編集委員長がとりまとめを行うが、通常は2名の意見がそのまま著者に返送される。この段階では論文の採択（学術誌への掲載）が決定されたわけではなく、修正された論文を再度査読して判断する人が多い。必要ならば、論文が完成されたレベルに達したと判断されるまで、何度も、査読—修正—再投稿、の手順が繰り返されることになる。ただし、学術誌の専門分野とは明らかに異なる内容である場合や、投稿論文の質があまりにも低く、何度か査読を繰り返しても改善される見込みがないと判断された場合などは、編集委員会の最終判断として不採択とされることがある。

投稿論文が、学術誌に掲載するに足る改善が認められたと2名の査読者がそれぞれ判断すれば、採択可の意見があげられる。最終的に編集委員会によって採択が決定され、査読のプロセスは完了となる。この段階で著者には採択の通知が送付され、印刷のプロセスに移ることになる。

## 査読者の指摘に対する対応

査読結果を受け取った著者はどのように対応すべきだろうか。まず、査読コメントや原稿中の書き込みをよく読み、何を指摘されているのか、理解に努めなければならない。軽微な修正ですむこともあれば、根本的に書き直さなければならないこともある。

独りよがりの解釈でなく、身近にいる投稿経験豊富な人に査読コメントを見てもらい、意見を聞くのも良い。その上で、基本的には査読者の修正要求には応じるべきである。前述のように、査読者は、どのように修正すれば論文の質が高まるのか、すなわち論文が採択に近づくのかという観点で査読を行っているからである。時には厳しい指摘があるかもしれないが、論文の質を高めるためのアドバイスだと受け止めてもらいたい。

査読者の修正指示内容に従って、的確かつ適切に論文を修正する。ただし、査読者の指摘に納得がいかない場合は、必ずしも査読者の指示通りに修正する必要はなく、反論することは許されている。著者と査読者の間に学術的主張に相違がある場合、査読者が誤解・曲解していると感じられる場合、査読者の指示通りに修正すれば、著者の主張がうまく表現できなくなると考える場合などである。場合によっては、著者と査読者との間で学問的論争に発展することもある。しかし、論文の採否の決定は編集委員会の権限であり、不採択となったからといって、そのことに異議を申し立てることはできない。その場合は近い分野の他の学術誌に再投稿すればよい。

論文を改稿し、再投稿する際には、修正した原稿とともに、それぞれの査読者に対して「査読者へのコメント」を必ず添付する。「査読者へのコメント」は以下のような内容で書くのが普通である。

### (1) 査読者への礼

査読者は多忙な中、無償で論文を読み、コメントを書いている。自分の論文のために時間を割き、アドバイスをくれたことに対してまず一言感謝の意を表することは、人間として当然の礼儀であろう。

### (2) 指摘箇所への回答

修正指示の一つ一つを引用し、それぞれについて具体的にどう修正、改善したかを記せばよい。全般的な指摘に対しては、どのような方針で書き改めたのかを要約する。個別詳細な指摘には、具体的にどこをどう修正したのかを記す。字句の修正など細かな指摘が多い場合は、それらを一括して「ご指摘の通り改めました。」としても良い。全体として、指摘箇所とそれに対する修正内容がもれなく記述されるように留意する。

原稿を指示通り修正してあれば、別紙に改めて回答をつけることは二度手間のように思われるかもし

れないが、これによって査読者の指摘を著者が正しく理解したかを査読者が確認することができ、二度目の査読が大変スムーズに運ぶ。また、前述のように、修正指示に応じられない場合はここで必ずその理由を述べなければならない。反論が必要ならここで行う。

### (3) むすびの挨拶

一言でよいので、締めくくりの言葉を記しておく。

修正原稿と、個々の査読者に宛てた「査読者へのコメント」をとりまとめて、指定された期限内に再投稿する。やむを得ず遅れる場合は必ず事務局に連絡する。論文の完成度によるが、通常、査読—修正—再投稿のプロセスが何度か繰り返される。従って、査読者の指摘をよく理解し、修正要求に適切に応えることが、査読の繰り返しを減らし、論文掲載までの期間を短縮することにつながる。

### おわりに

論文投稿経験の少ない著者にとって、査読は厳しい、高い壁のように感じられるだろう。まるで自分

の労作を否定されたかのように受け止めてしまうかもしれない。実際、著者の中には査読者の厳しい指摘を受け、途中で諦めて辞退してしまう人もいる。しかし繰り返しになるが、査読は投稿論文の質を高めるための重要な、前向きのプロセスであり、著者と査読者（編集委員会）との共同作業であるといえる。このプロセスを経ることで論文を書く力が確実に身につく。投稿中の人、これから投稿しようとする人も、この解説を参考にされ、査読に適切に対応し、論文の質を高めてもらいたい。

### 参 考 文 献

- 1) 原 臣司：論文をまとめるにあたって，診療録管理，17(1)，51-53，2005.
- 2) 信川益明：論文を投稿するにあたっての注意点，診療録管理，18(1)，83-87，2006.
- 3) 入江真行：論文を投稿するにあたっての注意点—図・表の取扱い—，診療録管理，18(3)，90-91，2006.
- 4) 渡邊一平：論文を投稿するにあたっての注意点—論文の種類—，診療録管理，19(1)，93-94，2007.
- 5) 日本診療録管理学会『研究論文投稿における倫理規定』および会誌『診療録管理』投稿規程.